

# オリーブの木

No. 51

2014年 2月



学校帰りのユダヤ人の小学生(ユダヤ教徒のしるしであるキツバを被っている)(エルサレム)

この冬は、中東でも大雪が降りました。エルサレムやベツレヘムでは積雪 37～40cm、数十年ぶりのことです。イスラエルの子どもも、パレスチナの子どもも、みんな大はしゃぎ、初めての雪だるま作りや段ボールを使ったスキーを楽しんでいました。どの国の子どももみんな同じです。当法人プロジェクト OB/OG の交流の場である Facebook も、それぞれが撮った雪景色の“傑作” 写真の投稿で大賑わいでした。

恒例の春のスタディー・ツアー、今年もいろいろな地方から 12 名の大学生が集まりました。事前研修の時の彼らの瞳は清々しく、熱意に溢れていました。春には現地では、長い紛争に苦しむ人々の心に触れ、とくに子どもたちの現状を目の当たりにして、「平和のために働く」ことの大切さを実感してくれるでしょう。これまでもこのスタディー・ツアーがきっかけで、自分の進路を国連や外務省に決めたり、難民キャンプにボランティアとして働きに行ったりする者もいます。

未来を担う子どもたちや若者たちの成長を温かく見守って下さいますように。

井上 弘子



NPO法人 **聖地のこどもを支える会**

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野5-8-7-502

TEL & FAX **03-6908-6571**

E-mail : seichi@k.email.ne.jp hiroko@michi-no-kai.com

ホームページ : <http://seichi-no-kodomo.org>

郵便振替 : 00180-4-88173 加入者名 : NPO法人 聖地のこどもを支える会



Accountability  
Self-Check 2008

当NPOは、国際協力NGOセンター(JANIC)によるアカウンタビリティ・セルフチェックを受け、基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について適正に運営されていると認定されました。

「ブツェレム」というイスラエルの人権団体が、1月初めに起きた事件として伝えたところによると、ヨルダン川西岸北部のウリフ村をユダヤ人入植者が襲い、建設中の貯水施設のメーターを叩き壊したり、家屋や学校の建物に投石したりしました。入植者たちにはイスラエル軍兵士が、まるで襲撃を支援するかのようにつき添っていたそうです。この村は、西岸北部の中心都市ナブルスの南郊にあり、実は2年前にも繰り返し入植者とイスラエル兵から襲撃されたうえ、村を守るためにやって来たパレスチナ人がイスラエル兵の攻撃を受けたという記録があります。

思い出すのは20年ほど前、西岸南部の中心都市へブロンで、別のイスラエル人権団体が入植者による嫌がらせからパレスチナ人集落を守る活動を取材に行った時のことです。この集落では、近くの入植地から入植者たちがやって来ては、家々に投石したり、物を投げ込んだりするので、人権団体の活動家たちが金網を張りに来たのでした。暫くすると入植者たちが来て、この活動を妨害し始め、写真を撮る記者に突っかって来ました。すると間もなく、イスラエル兵がやって来て、紛争を防止するためと称して、一帯を「立ち入り禁止区域」にし、活動家と記者

を追い出したのです。騒ぎの原因が何かを聞くこともなく。

入植者による蛮行は相変わらずか、と思ったものです。

占領地での入植活動は国連決議で禁止されています。違法というだけでなく、入植地はパレスチナ人の土地を奪い、その保護を名目にした治安措置がパレスチナ人の移動をはじめ、生活に制約を加えています。国際的には、親イスラエル色が強い米国でさえ、今のオバマ政権は入植地が和平の妨げになっていると批判を強めています。国内でも、西岸での兵役でパレスチナ人の人権を無視した軍務に就かされた元兵士たちが告発を始めたという動きがあります。

このような元兵士や人権団体による活動の存在は、イスラエルの民主主義の強さを示すものといえます。しかしパレスチナ人の人権を主張する活動に対しては、極右政党も加わる現政権や右派勢力から、軍を貶め、イスラエルの治安を弱めるものだという攻撃が強まっていると聞きます。これらの活動の行方が気にかかります。

（元朝日新聞エルサレム特派員、中東支局長）



エルサレムとベツレヘムの間の丘に建設された入植地：ハル・ホマ 手前はベツレヘムの市街地

## 事前研修会の報告と参加者の感想

1月25日(土)、26日(日)の両日、JICA東京国際センターにて「イスラエル・パレスチナ スタディー・ツアー」の事前研修会が開かれました。参加者の学生は12人。関西から北海道まで幅広い地域から、この日のために集まりました。

簡単な経過報告と参加者の感想をご紹介します。(篠原双葉・学生リーダー)

25日午前は、自己紹介、アイス・ブレイキングを通じて参加者がお互いに仲を深めた。最初は緊張した面持ちであったが、次第に笑い声が聞こえ始め、やわらかい空気になっていった。午後は、「平和をつくる子ども交流プロジェクト」を紹介するDVD「未来へのおくりもの」を視聴した後、各自が準備してきたイスラエル・パレスチナに関するプレゼンテーションを行った。

一つ一つの内容が濃く、発表する側も聞く側も真剣さが溢れていた。質問や意見が飛び交い、お互いの知識を交換しあう時間となった。その後の「一日の振り返り」の時間では、プレゼンの内容を含め、各自が感じたことを述べた。「中東に興味のある人たちと意見を交換できてよかった」「イスラエルやパレスチナの人たちの本気の感情に向き合う覚悟ができた」など、それぞれが春のツアーに向けて意識を高めていく様子うかがえた。夕飯の後、DVD「エルサレム」を視聴。終了時刻の21時には、全員が疲労を顔に浮かべていた。

26日 午前はず、ツアーで使う英単語を探し、共有した。イスラエル・パレスチナに特有の単語というテーマで探していったが、聞きなれない単語が数多く見つかった。退役イスラエル兵の証言を集めたDVD「沈黙を破る」を視聴。シェアリングでは、DVDに関する感想が多く出された。「イスラエル・パレスチナの中での『普通』と我々が考える『普通』は違う」「極限の状態で加害者も被害者も思考停止



JICAでの事前研修

しなければ生きていけない状況がある」など、考えなければならぬ意見が多く出された。また、イスラエル・パレスチナをテーマにしたRole playingを行った。当事者の立場になることはできなくとも、「自分だったら」と想像力を働かせることで、臨場感が生まれていた。「平和をあらわす7つの言葉」を見つけるワークショップを行った。様々な言葉が出てきたことで、7つにはまともらず、平和という一言の中に多様な意味合いが込められていると感じた。

2日間を通して、参加者の仲が深まったのはもちろんだが、短い時間の中でも、互いが互いの意見を聞き、相手を尊重しあう空気が生まれていた。このメンバーならば、次回の事前研修も含め、3月6日から始まるツアーもきっと実りの多いものになるだろう、と確信している。

### 参加者の感想

◎平和にとって大切なものは？

藤居 由依

二日間、しっかり平和について考えた結果、やはり将来、平和構築に関わることを生業にしたいと強く思いました。私は人間の根本的なものは共通していると確信しており、またこの考え方が平和への希



研修を終えた12人の若者たち。みんな仲良くなりました。

望となっている。

今回、イスラエルの方、パレスチナの方が共通して持っている根本的な部分に注目して、自分の信念を再確認し、将来の夢への原動力にすることを目標にしたいと思う。また今回、道徳的な教育の必要性を再確認したので、イスラエル・パレスチナの教育のあり方についても、事前に調べて現地でも注視したい。同時に、イスラエル人・パレスチナ人にとって平和を達成するために大切なことは何なのか見つめようと思う。

### ◎一つの良い経験として終わるのではなく

中尾 有希

私は事情により、二日目しかこの研修に参加することができませんでしたが、その短い時間の中でも、学び、考えさせられることが多くありました。それと同時に自分の無知にも気づかされました。考えたことがなかったテーマにもぶつかったからです。

基礎的なことですが、このツアーの前に、先ず学び、それについて考える時間を持ちたいと思いました。その段階なしでは、ツアーに行っても、テーマである「平和を願う対話」ができないと思います。

それから、ツアー中そしてツアー後も、平和を達成するために今日話し合われたことを、私自身も実践していきたいと思います。やはり、私にとって平和とは、グローバルなレベルのものだけではなく、個人間から始まるものだと思うからです。

ツアーが実生活から切り離された一つの良い経験として終わるのではなく、ずっと私の心に生き続けるものであってほしいと願います。そしてそれと同時に、私たちばかりが一方的に得るのではなく、何かを与えることのできる機会にもしたいです。

### ◎平和をつくる当事者として

櫻庭 丹陽

二日間の研修で、パレスチナの歴史、イスラエルの歴史を学び、双方の現状を知った。子供に自爆したいと言わせてしまう状態、スコープに写るのは絵だと思ってしまうようにしていたと語った元イスラエル兵士。紛争とは無縁の状態にいる私にとっては、もの凄い

衝撃であった。行動には必ず理由があり、その理由は根が深いものであり、その原因を今すぐ解決することは難しい。彼ら/彼女らから見たら、私は紛争の当事者ではない。しかし第三者であるからこそ、中立の立場からイスラエルの人、パレスチナの人々の話を理解し、彼ら/彼女らをつなげることはできる。紛争の当事者ではないが、平和をつくる当事者として尽くしたいと思う。

### ◎臆せずイスラエル・パレスチナ双方の人たちと

西村 まゆき

二日間、様々なDVDを見たり、新聞記事を読んだり、ディスカッションをしたりしていく中で、本当にいろいろな人の、様々な角度からの意見に触れて、パレスチナ紛争についてとても深く考えさせられた。今まで考えてきたことが深まったり、時には覆されたり、ということを経験した。研修の最後に「平和を達成するための7つのワード」のワークでもそうだったが、3月に実際に現地へ行った時には、事前に何が正解なのか、自分が見たいものは何なのかということをおも固定してしまわずに、フレキシブルにありったけのものを見て、感じて、ありったけ吸収してきたいと思った。

また、他の人と話すことで、自分の思考が整理されたり、新しい視点を与えられたりしたので、向こうでも、それが私も相手も出来るように、臆せずイスラエル・パレスチナ双方の人たちと沢山話をしたい。そのためにも、今回学んだ英単語はちゃんとカバーしていこうと思う。

### ◎現状を自分の目で

森 紀道

僕は今回、イスラエル・パレスチナに行くに当たり、

この集まりで学んだこと、現地の人々の思い、歴史的背景を再確認することができた。事前にこのような会が持てて良かった。参加者メンバーとの話し合いから新鮮なアイデアを持つことが出来て、とても刺激になり、この旅に対する思いが変わった。

現状を自分の目で見て実感したい。特に、僕たちは中立という立場で、少しずつでも平和を作るということで出向くわけだが、掲げた平和の概念を元に、新しいことを学んで、対立している人たちの架け橋になることができれば……と考えている。

### ◎印象は必ず変わる

篠原 双葉

【私は熱くなると周りが見えなくなりがちです。他の

人に対して、自分がどのようなことをしているのか、ということが見えなくなってしまう。事前研修の反省です。】

本や映画でしか知り得なかったことを、自分の目で見ること。事前研修で、「もし自分が被害者や加害者の立場になったら」というロールプレイングをしたが、その時も（当たり前だが）当事者の気持ちは分からなかった。自分の目で見て、体験しない限り、いくら話をして分かったつもりになっても、それは単に「つもり」なのだ。

西岸地区に行って、自分が当事者になれるとは思っていない。けれども、自分が今まで持っていたイスラエルやパレスチナに対する印象は必ず変わると思う。そのために、私は今回のツアーに参加する。

## 事前研修会 プログラム

### 1月25日(土)

- 9:15 集合 JICA 東京国際センター
- 9:30 オリエンテーション  
理事長挨拶 スタッフ紹介  
参加者自己紹介 研修スケジュール確認
- 10:30 ワークショップ  
他己紹介などアイスブレイキング
- 11:30 プレゼンテーション準備
- 12:00 昼食
- 13:00 DVD「未来へのおくりもの」視聴（注）
- 14:00 プレゼンテーション準備
- 14:30 プレゼンテーション  
①イスラエル・パレスチナの地理確認  
②グループごと課題発表  
\*エルサレム  
\*領土問題について  
\*分離の壁と検問所  
\*入植地について  
\*パレスチナ難民問題
- 17:00 シェアリング
- 18:00 1日の振り返り
- 18:30 夕食
- 19:30 DVD「エルサレム」視聴
- 22:00 就寝

### 26日(日)

- 7:00 朝食
- 8:45 スタディー・ツアーに必要な英単語習得
- 9:30 英会話
- 10:30 DVD「沈黙を破る」視聴
- 11:15 シェアリング
- 12:00 昼食
- 12:50 プレゼンテーション  
\* ホロコースト
- 13:10 ロールプレイング  
①チェックポイントと自爆攻撃  
②入植地・分離の壁・パレスチナ人の苦しみ
- 14:45 村上宏一氏のお話  
(元朝日新聞エルサレム特派員・中東支局長)
- 15:30 ワークショップ  
\*「7 WORDS」“平和とは”  
\*「対立を解決するには」
- 17:15 決意表明
- 18:00 研修の振り返り、連絡事項 ,etc.
- 18:30 終了 解散

(注) タイトルは《日本人が聖地に蒔いた「対話の種」》 TV番組『未来へのおくりもの』(BS-TBS)のスペシャル番組として、2011年4月24日放映されたもの。株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの提供による。当法人の《平和をつくる子ども交流プロジェクト》を紹介している。

Elaia you're a prayer to God  
Life on a heaven road  
White cloth beneath the tree  
Singing as we count them in

エライア\*、あなたは神への祈り  
天へ向かう道の糧  
オリーブの根元に白い布を広げ  
歌う我らの手摘み歌

Olives a hundred, Olives a thousand  
Shaking the olive tree of God  
Good olives every one  
Praise God and Bless God each day.

パラパラと ザンザンと  
神のオリーブの樹を揺すり  
恵みの実を 雨と降らせて  
日ごと 神をたたえ 神をほめよ

Elaia you're a prayer to God  
Beads of God's holy light  
Push the grind stone round  
Good oil flows into the jar

エライア、あなたは神への祈り  
聖なる光の飛沫  
石臼を回し  
恵みの油を壺に満たせ

Olives a hundred, Olives a thousand  
Shaking the olive tree of God  
Good olives every one  
Praise God and Bless God each day.

パラパラと ザンザンと  
神のオリーブの樹を揺すり  
恵みの実を 雨と降らせて  
日ごと 神をたたえ 神をほめよ

On the tree we graft new branches  
Harvest on the good olive  
Tree of Abraham and Isaac  
Tree of God's love ever-strong

いにしへの樹に 我らが接ぎし枝にも  
たわわなる恵みの実り  
アブラハム、イサクの樹  
神の尽きせぬ いつくしみの樹

Olives a hundred, Olives a thousand  
Shaking the olive tree of God  
Good olives every one  
Praise God and Bless God each day.

パラパラと ザンザンと  
神のオリーブの樹を揺すり  
恵みの実を 雨と降らせて  
日ごと 神をたたえ 神をほめよ

\*ギリシャ語でオリーブ  
(訳 磯部 雅子)

## 出会う

磯部 雅子(当法人理事)

例えば、当NPOのスタディー・ツアーのための2回目の事前研修(2月25日予定)では、イスラエル・パレスチナ双方の大使が、参加する学生たち12名に向けてお話しされます。

そう、同じ日にです。スケジュールさえ都合がつけば、同席していただくのも難しいことではないのでは……。これはもちろん、日本にいらっしゃるからで、母国に戻れば、それは夢物語です。

個人としては互いに分かり合える間柄でも、ひとたび国家や社会の枠組みに入れば、親愛の情など

吹き飛んでしまうのが現実です。

互いに憎しみや侮辱の対象であった国の若者たちが、日本人の支援と友情に包まれて、枠組みの縛りのない日本で出会い、話しあい、意見を戦わせ、怒鳴りあいもし、けれどもいつしか笑いあい、肩を叩いて・・・初めて相手の真実の姿を知り合う。そして自分自身の平和への新たな歩みを創り出していくのです。若者たちの平和への決意と希望の輝きを、今年も支え、展いていけますように。

皆様のご支援に深く感謝しております。

# 顔の見える支援 里親を募集しています!

紛争による貧困で真っ先に犠牲になるのは、子どもたちです。  
成長に必要な栄養が足りず、防げるはずの病気で命の危険にさらされている現実。  
いま、この瞬間も、毎日生き抜くことで精一杯の子どもたちがいるのです。

里親としての支援を受けている子どもたち、3人の写真をご紹介します。



バハアちゃん  
8歳



マイスちゃん  
6歳



アリアちゃん  
9歳

例えばバハアちゃんは、エルサレム旧市街で母親と暮らしている3年生。2年前から教育支援を受けています。住宅や食糧事情が悪く、健康にも困難をかかえています。父親は様々な事情で遠くに住み、月に1度しか訪ねて来ません。母親は病気で、長期の療養が必要な状態なので、子どもたちの世話が満足にできません。

住環境は安全・衛生面で不十分、台所は前に壊されたまま直すこともできません。愛情を一番求める年ごろにもかかわらず、家庭環境には全く恵まれていません。

## 学びは将来の希望へとつながります!

あなたのご支援によって、厳しい環境に生きる子どもたちが学校で学ぶことができます。

また、自分を応援してくれる里親の存在が、子どもたちにとっての励ましとなります。写真や手紙の交換(任意)により、子どもの成長を身近

に見守ることができます。

紛争地で生きる子どもが、平和をつくる人に育つように、ご支援をお願いします。

1日コーヒー1杯分のご支援で、  
子どもの人生が、変わります。

『里親制度』にお申込みいただくと、1人の子どものご紹介し、スポンサーキットをお送りします。グループや法人でのご支援も可能です。

- 幼稚園児、小学校低学年…月々3,500円
- 小学校高学年、中学生、高校生…月々5,500円

当法人事務局まで  
お気軽にお問い合わせください

tel. 03-6908-6571

hiroko@michi-no-kai.com  
seichi@k.email.ne.jp

## 支援金の自動払込みサービス

ご好評をいただいている自動払込みサービス。  
まだの方はぜひご利用ください。

- \* 毎回 郵便局へ払込みに行く手間が省けます。
- \* いつからでも、いくらからでも 簡単に始められます!

お申込み・お問合せは

当法人事務局 **03-6908-6571**

または **042-636-9218** (中山)

雪の中の子どもたち

▼初めての雪にベツレヘムの子どもたちは大はしゃぎ



▲ふわふわの雪「チョー気持ちいい!!」



▲雪の「王座」の上に座って笑顔のパレスチナ人親子(エルサレム)



▲「パレスチナ人雪だるま」を作って得意顔のガザウイ兄弟(エルサレム)

町で出会った  
あどけない子どもたち



▲ガリラヤのカナ(イエス様が水をぶどう酒に変えられた町)の女の子たち



▲デヘイシャ難民キャンプの子どもたち(ベツレヘム)



▲ボーイスカウトの制服を着て(ベツレヘム)



ことしも青山学院大学で  
発表しました

当法人イスラエル・パレスチナ スタディー・ツアーのメンバーが、「民俗学」講義の最終授業に招かれて、同世代の学生たちに、自分たちの体験を話しました。

写真提供 井上 弘子